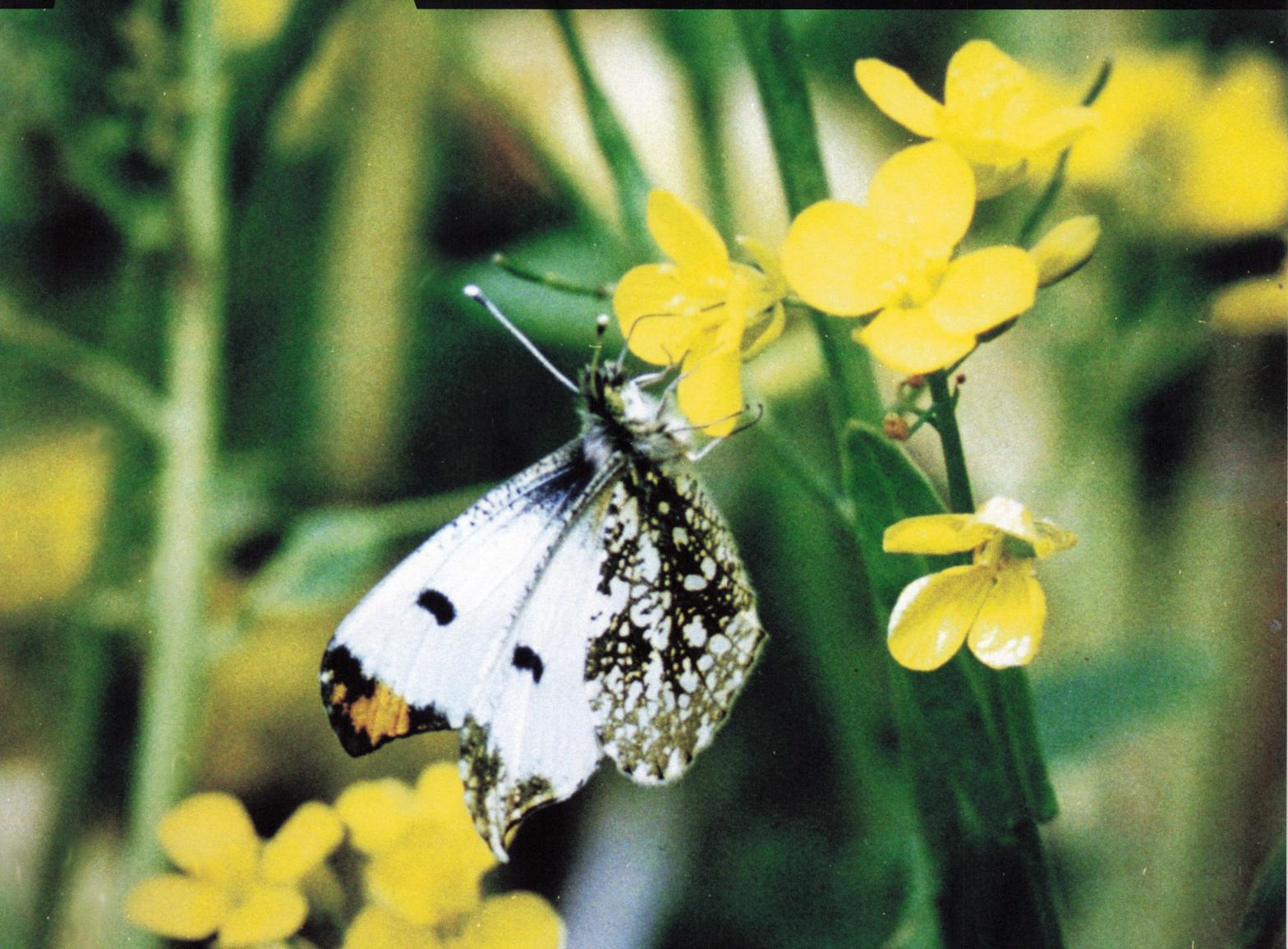


わたしの ニュース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第4号 2005/2

特集 昆陽池の春のチョウ



伊丹市昆虫館

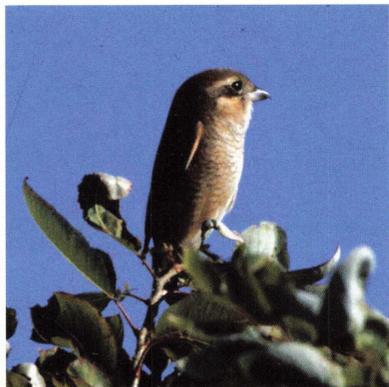
ほっとパーク昆陽池

モズのはやにえ

皆さんは木の枝先に昆虫や小動物が突き刺さり、日干しになっている光景を見たことがありますか？例えば下の写真のような光景です。枝に刺さっているのはムカデです。これはモズという鳥のしわざで、モズのはやにえと呼ばれています。モズはスズメ目モズ科に属する小型の鳥で、昆虫やミミズ、カエルやトカゲ、時には小鳥なども襲って食べることから、小さな殺し屋とも呼ばれます。そして捕らえた獲物をすぐに食べずに、木の枝や鉄条網などに刺し放しておく（はやにえする）ことがあります。はやにえをする理由は、秋にとったエサを冬の非常食とするため、自分のなわばりを示すため、楽しんでいるだけなどの理由が考えられていますが、まだはっきりとは分かっていません。

昆陽池公園でも、アキニレやハナミズキなどの木の枝先にカメムシやムカデ、コオロギなどが刺さっているのを観察できます。散歩がてら目を凝らして探してみてください。ひとつ見つかると思ったら不思議、結構身近にあるんです。冬の自然観察にちょうどいいですよ！

はやにえになった「ムカデ」 右
はやにえになった「コオロギ」 右下
モズ（撮影 中島繁雄） 下



春に咲く花たち

ぽかぽかと暖かい春がやってきたら、いっせいに咲き出す春の花を観察してみましょう。花を観察しているとやって来る昆虫や鳥たちとも出会うことができます。ここでは3月から4月にかけて公園内で見られる花（樹木）を紹介します。

動き出す昆虫も少なく、まだ肌寒い3月にはボケやヤブツバキの花が見られます。ヤブツバキはサザンカとよく間違われますが、花の終わりに花弁を散らすのがサザンカで、花ごと落ちるのがヤブツバキです。ヤブツバキにはヒヨドリやメジロなどが甘い蜜を求めてやって来ます。これらの鳥は蜜を吸うかわりに花粉を運んで受粉を助けます。4月に入ると池のほとりではシダレヤナギやアカメヤナギなどが咲き始めます。黄緑色の地味な花はあまり気づかれませんが、5月末頃に綿毛に包まれた種が、公園を舞う光



ヤマブキ

景はとてもきれいです。ソメイヨシノが満開を迎えると、公園南側の広場はお花見の人々でにぎわいます。暖かい日にじっと観察しているとそこにはミツバチやクマバチ、モンシロチョウなどが訪れることもあります。ほのかに甘い上品な香りがし、雪が積もったように美しく咲くのはユキヤナギです。ハナアブの仲間が良く訪れ、5月に入ると幼虫がこの木を食草とするホシミスジというチョウが周りを飛びまわります。ふるさと小径の林の中で、色鮮やかな黄色の花を咲かせるのはヤマブキです。ドンダリの仲間の木も、春に花を咲かせます。淡い黄緑色のひも状の花には、ハナアブやハナムグリなど多くの昆虫が集まります。クヌギやシイノキなどは実がなるのに2年かかるため、今年咲いた花は来年の秋に実をつけます。

春が過ぎ、新緑の季節になるとツツジやクチナシ、フジ、センダン、タイサンボクなど色とりどりの花が咲き始め、花を訪れる虫たちも変化していきます。季節毎に足を運んで自然の移り変わりを感じてみませんか？（野本康太）



ソメイヨシノ



ユキヤナギ



ヤマブキ

むしムシ虫眼鏡

Vol. 4 子育て上手のカメムシさん

春の昆陽池公園には、“ヒメオドリコソウ”という薄紫色のかわいらしい花がたくさん咲きます。この花をよ〜く観察すると、花や茎の上に体長5ミリほどの小さな黒い虫がいることに気がつくでしょう。この虫が今回の主役“ミツボシツチカメムシ”です。よく見ると、背中に白い三つ星模様のある、小さなとってもかわいカメムシなのです。

さて昆虫の中には、産卵してからも卵や幼虫の世話を続ける虫たちがいます。タガメやコオイムシ、ミツバチやアリなどが有名ですが、このミツボシツチカメムシも子育てをする虫として知られ



ヒメオドリコソウ 卵を守るミツボシツチカメムシのメス(昆虫館飼育)

ています。メスが枯れ草の下や柔らかい土の中で、ボール状の卵塊(卵のかたまり)を産むと、その母親は何日もずっとつきっきりで、アリなどの天敵からわが子(卵)を守るのです。幼虫がふ化してからも、メスは幼虫のためにヒメオドリコソウの種を取りにいき、エサとして与えるのです。この小さなカメムシの、人間顔負けの細かい子育てには、本当に驚くばかりです。

春の昆陽池公園でヒメオドリコソウを見つけたら、ミツボシツチカメムシを探してみましょう。しゃがみ込んで、顔を近づけて、ファール気分で観察するのはとても楽しいですよ!周りの人からは、変な人だと思われるかもしれませんが・・・。(奥山清市)

<ミツボシツチカメムシ>

学名: *Adomerus triguttulus*

分類: カメムシ目ツチカメムシ科

体長: 4~6ミリ

分布: 北海道から九州

亜熱帯の温室から

Vol. 4 チョウに福をもたらした木

ドラセナフラグランスは熱帯アフリカ原産で、淡黄色の縦筋が入った大きな葉とごつごつした樹皮は、亜熱帯の雰囲気作りに欠かせない植物です。学名からはぴんと来ないかも知れませんが、「幸福の木」として園芸店で売られているので、姿を思い浮かべることができるかも知れません。15年前、温室に植栽されたときは1mくらいの大きさだったのですが、年々育ち、その大きな葉は地表の植物に届くはずの光を閉ざすので、少しやっかいだと思っていた始めた平成6年の冬、突如大きな花序をあげ、以後毎年花をつけるようになりました。その花は、温室内のチョウ達に大人気で、今

では冬の蜜源花として活躍しています。花期は短いのですが、丸い実をつけてからもチョウ達はその実や花序に口吻をのぼします。蜜を探し求めているチョウ達にとっては年に一度ですが、幸福をもたらす木となりました。剪定をひかえ毎年その花が上がるのを待つようになった今では、温室の北側壁面に沿って、シマナンヨウスギと高さを競うくらいにまで育っています。(後北峰之)

<ドラセナフラグランス>

学名: *Dracaena fragrans* 'Massangeana'

分類: リュウゼツラン科



昆陽池の春

寒さがやわらぎ、モクレンの花が咲きはじめる頃、春をじっと待っていた昆虫池公園では近年(2001年～2004年)、36種のチョウが確認されています。その中まず(表を参照)。今回の特集ではこの早春のチョウたちを紹介しましょう。

春一番のチョウを探しに行こう



菜の花を訪れたツマキチョウ

春にしか見られないチョウ、ツマキチョウ

菜の花やタンポポが咲く草むらを早春に飛ぶチョウ、それがツマキチョウです。名前のとおりオスのはねの先(=ツマ)が少しとがり、オレンジ色をしています。珍しいチョウではないのですが、あまり有名ではありません。見られる場所、大きさ、姿までがモンシロチョウに似ているので、存在に気づかないことが多いのです。しかし、気づきにくい理由はそれだけではありません。モンシロチョウは春から秋にかけ、何世代も繰り返し発生するため長い間見ることができるのですが、ツマキチョウは年に1回、3月下旬から4月下旬にかけてだけ見られるチョウなのです。このチョウの幼虫はモンシロチョウと同じアブラナ科植物を食べますが、モンシロチョウの幼虫が葉を食べるのに対し、ツマキチョウの幼虫は花や果実を好みます。



モンシロチョウ

春にしかみられないチョウとしてはギフチョウが有名で、「春の女神」とも呼ばれています。昆陽池公園にはギフチョウはいないので、ひとまわり小さなこのツマキチョウは、「春の妖精」といったところでしょうか。昆陽池公園では明るいひらけた場所で見られ、昆虫館前のバタフライガーデンにもやってきます。モンシロチョウほどゆったり飛ばず、小きざみにパタパタと羽ばたき一直線に飛ぶので、なれると飛び方で見分けることができます。

越冬を終えたチョウたち

チョウの冬越しというと、アゲハチョウやモンシロチョウのようにさなぎで冬を過ごすイメージを持たれているかもしれませんが、しかし、成虫、つまりチョウの姿で冬越しする種類も多くいます。冬でも小春日和に見られるチョウはたいてい、そうしたチョウたちです。彼らは葉や草の陰でじっと春を待ち、暖かくなるとすぐに活動をはじめます。昆陽池公園で春、真っ先に姿を見せるのがこのチョウたちです。



ツバキの葉裏で冬越しするウラギンシジミ

昆陽池公園で成虫越冬するチョウは、テングチョウ、ルリタテハ、キタテハ、キチョウ、ウラギンシジミ、ムラサキシジミなどです。どのチョウも何ヶ月もの寒さに耐えたとは思えないほど、春には元気に飛び回ります。そして交尾をし、卵を産むのです。キチョウは林ぎわの草むら、テングチョウやウラギンシジミなどはふるさと小径など林の中でよく見られます。

さなぎや成虫で冬を越すチョウもいれば、卵や幼虫で冬を越すものもいます。例えばゴマダラチョウは幼虫で冬を過ごします。ゴマダラチョウの幼虫は、食草であるエノキの落葉の中でじっと寒さに耐え、春が訪れると木に登っていきエノキの若葉を食べ始めるのです。ツマグロヒヨウモンやベニシジミも幼虫で冬を過ごします。



ルリタテハ



キチョウ



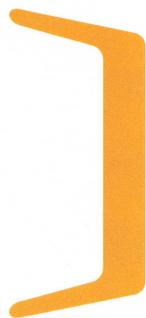
テングチョウ

チョウ初見カレンダー

さて、早春のチョウたちのなかでも特に早くから成虫が見られるのは、やはり成虫で冬を過ごすテングチョウやムラサキシジミ、キチョウなどです。昆陽池公園では3月中旬頃よりこれらの種類をよく見かけるようになります。そして4月上旬にはツマキチョウ

のチョウ

たちもようやく活動をはじめます。「チョウ」は春の季語。昆陽で3月から4月にかけて観察されるチョウは16種類にのぼり



ウやモンシロチョウ、ナミアゲハなども姿をあらわし、中旬にかけて観察できる種類も増えていくようです。2001年の観察記録を見てみるとキチョウ(3/21)、ヒメアカタテハ(3/22)、モンシロチョウ(3/28)、ムラサキシジミ(4/5)、ツマキチョウ(4/8)、テングチョウ(4/8)、ナミアゲハ(4/9)という具合です。このようにある年にある虫(成虫)が初めて観察された日にちを初見日といえます。今年の春一番のチョウはなんでしょう？何月何日に出てくるのでしょうか？



アオスジアゲハ



クロアゲハ



ベニシジミ



ヤマトシジミ



ナガサキアゲハ



ジャコウアゲハ

春型と夏型

先ほど紹介したツマキチョウは春にしか見られないチョウですが、アゲハチョウは春先から秋口まで見ることができます。1年に2回以上発生する(世代を繰り返す)チョウでは、季節によって色彩や体の大きさが変わる種がいます。昆陽池公園ではナミアゲハ、ベニシジミ、キチョウなどです。春先に出てくる世代を春型と呼び、夏場に見られる世代を夏型と呼びます(種類によっては秋型と呼ばれるタイプを持つものもあります)。一般に春型は小型で明るい色彩を持ち、夏型は大形で色彩が黒ずむ傾向があるようです。季節型をもつチョウを写真に撮り、春と夏でくらべてみると、その違いがはっきり分かります(坂本昇、野本康太)



ナミアゲハ春型



ナミアゲハ夏型

昆陽池公園で観察されたチョウの種類 (2001~2004)

科名	種名	3・4月に見られた種
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	○
	カラスアゲハ	
	キアゲハ	
	クロアゲハ	○
	ジャコウアゲハ	○
	ナガサキアゲハ	○
	ナミアゲハ	○
シロチョウ科	モンキアゲハ	
	キチョウ	○
	ツマキチョウ	○
	モンキチョウ	
タテハチョウ科	モンシロチョウ	○
	コジャノメ	
	ヒメジャノメ	
	アカタテハ	
	キタテハ	○
	クロノマチョウ	
	ゴマダラチョウ	
	コムラサキ	
	ツマグロヒョウモン	
	ヒオドシチョウ	
	ヒメアカタテハ	○
	ホシミスジ	
	ルリタテハ	
	アサギマダラ	
テングチョウ	○	
シジミチョウ科	ウラギンシジミ	○
	ウラナミシジミ	
	ツバメシジミ	
	トラフシジミ	○
	ベニシジミ	○
	ムラサキシジミ	○
	ヤマトシジミ	○
セセリチョウ科	イチモンジセセリ	
	キマダラセセリ	
	チャバネセセリ	
計	36種	16種

【さいきんの

クロスズメバチの生け捕り

2004年11月、休日を利用して兵庫県西部の山をハイキング中、小さな黒いハチが地表付近から出入りするのを当館の野本学芸員が発見。サンプルを持ち帰り昆虫館で同定してみると、食用昆虫として珍重されているクロスズメバチであることが判明しました。翌週の11月10日を捕獲日と定め、クロスズメバチ捕獲チームを結成し準備をすすめることになりました。メンバーは私と当館学芸員の坂本と、無類のハチ好き昆虫館友の会会長の井上氏の3名です。クロス

して下山し昆虫館に無事持ち帰ることができました。

寒さに強いクロスズメバチは5℃の冷蔵庫に入れておいてもおとなしくならないので、二酸化炭素を容器に流し麻醉をかけて成虫を少しずつ捕らえてゆきます。成虫が出てこなくなるとようやく巢の解体作業にとりかかれます。最初に数枚からなる巢盤(子育てする部屋)を取り囲んでいる外被をはずします。巢盤と巢盤は何本かの硬い支柱でつながっていて、その間はハチがギリギリ通れるすきましかあいていません。それを糸のこや、刃をできるだけ延ばしたカッターナイフなどを使い、くずれやすい巢盤を丁寧に切り離してゆきます。

現在、1群はまるごと標本(その巢で暮らしていた全てのクロスズメバチの標本)として整理中です。春先から巢の場所を決め、卵を産み続けてきたたった1匹しかいない創設女王バチも見つっています。働きバチは約1500匹、雄バチが87匹確認されています。巢盤

は8枚からなり、そのうち下の6枚を育房として使用していました。六角形の巢の総数は8000を超え、卵の部屋として919巢、幼虫が2002巢、繭の部屋として2440巢を使っていました。育房の地図などは作成中です



外被

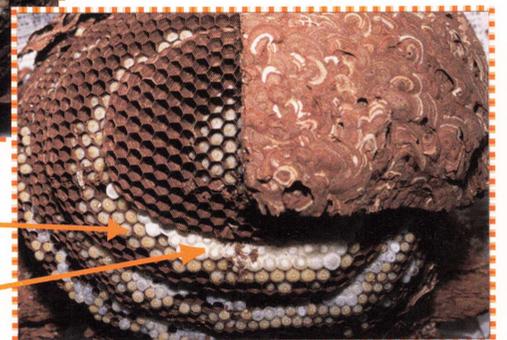
ズメバチは隣接する場所で2群みつかったのですが、1群は食用に、1群は標本用にするを目的として機材の準備と捕獲作戦をたてました。薬剤を使った殺虫はできないので、

ズメバチ捕獲用防護服や革手袋、長靴を装備し、さらに捕獲の様子を記録するためのカメラやビデオ、巢を丸ごと収納するための容器、帰巢する働きバチを捕らえるための網と、捕らえた成虫を入れるカップ等々の重装備を3人でかつぎ、台風15号の爪痕が生々しい林道を登って標高400mの営巣地点にたどりつきました。

晩秋のズメバチは、次世代の新女王バチと雄バチを生産する時期で、巢の規模が最も大きくなり、比較的小となしいズメバチとはいえ油断できません。案の定坂本氏が2箇所、私が3箇所、手に刺傷を負うことになりました。掘り出した巢は上下逆さまにして運ばないと、育房に入っていた幼虫が飛び出てしまい、巢の様子をきちんと観察することができなくなります。群れが入った容器を振動させないようにかかえ、林道をふさぐ倒木をまたいだり、くぐったり



巢盤



幼虫

繭

が、かなり大きな群れであったようです。今秋のズメバチ展で、このクロスズメバチを他のズメバチの1群標本とともに展示する予定です。

一方もう1群は、昆虫食を極めつつある坂本学芸員が、クロスズメバチのへぼめし作りに挑戦しました。その過程やレシピについては次号に掲載予定です。(後北峰之)

飼育室から

新春ちょうちょおみくじ2005

正月恒例の「新春ちょうちょおみくじ」が、今年も元旦から1月3日まで開催されました。チョウ温室のちょうちよたちから、シロオビアゲハやコノハチョウなど8種類を選んで作られたおみくじは毎年大好評で、「大吉」のオオゴマダラをひいた人には、昆虫館オリジナルの新春バッジをプレゼントしています。今年のバッジは、干支の「酉」にちなんでトリバネアゲハがデザインされたもので、手に入れた人はみなさん大喜びでした。このこだわりのちょうちょおみくじは、もちろん来年もやるつもりですので、来年のお正月もぜひ昆虫館に遊びにきてくださいね。(奥山清市)



クロカタゾウムシの長生き記録



1999年12月26日に昆虫館へやってきたクロカタゾウムシ(オス)が、2004年9月30日に死亡しました。約4年9ヶ月の間生きていたこととなります。昆虫館の飼育室は温度や湿度が1年中保たれ、またエサも十分に与えられる環境がよかったのかもしれませんが、野外の厳しい自然の中にくらすクロカタゾウムシの寿命はわかりませんが、飼育してみると意外と長生きすることがわかりました。(角正美雪)

12月のクリスマス装飾

1年中1000匹ものチョウが飛び交う伊丹市昆虫館自慢のチョウ温室。クリスマスムードを誘う真っ赤なポインセチアの中心に、ひと味違ったツリーが登場しました。その名も「さなぎツリー」。黄金に光るオオゴマダラのさなぎを中心に、5種、計約40個のチョウのさなぎがぶら下がったツリーです。もちろんさなぎは生きていますので、さなぎからチョウが羽化する、感動の瞬間に出会えたかたもいらっしゃるのではないのでしょうか。



もうひとつ、200倍の大きさに拡大したみつばちの模型、その

名もビッグ・ビーは昆虫館の人気者です。でも「ちょっとこわい」と泣き出す子どもさんも…。そんなビッグ・ビーがこの冬、はじめてサンタに変身しました。大きな帽子をかぶり、ポインセチアとキラキラに囲まれたみつばちサンタが12月に来館されたみなさまをお迎えしました。親子おそろいでかぶることができる帽子も記念撮影にご利用いただきました。12月の間の特別イベントでした。(角正美雪)



パスポートのデザインが新しくなりました

有効期間中、何度でも昆虫館に入館できる「昆虫館パスポート」を、平成17年も販売します。今度のはかっこよくミヤマクワガタが目印で、昆虫館受付で申し込みできます。昨年度から継続して利用される方は、申し込み時に古いパスポートをお持ち頂ければ、手続きが簡単になります。ぜひご利用ください。(奥山清市)



大人	中高生	3才~小学生
1500円	500円	300円

昆虫館の売店も利用してね!

昆陽池公園の立体駐車場そばにある売店は、実は昆虫館のミュージアム・ショップでもあるのです。ポスターやシールなどの昆虫グッズ、きれいなチョウやかっこいいカブトムシなどの昆虫標本、図鑑や飼い方などの昆虫図書など、昆虫関係のものがたくさんあります。特に友の会会員は、昆虫採集道具や観察道具、標本作成道具が1割引で購入できますので、ぜひ入会して利用してくださいね。(奥山清市)



伊丹市昆虫館友の会 会員募集中です!

伊丹市昆虫館友の会が2年目を迎えました。入会して、友の会ならではの行事に参加したり、自然好きの仲間に加わりませんか。今年から「家族会員」の制度ができ、家族で入りやすくなりました。会員証は昨年までのバッジに代わり、今年はカードになっています。会員の期間は1月~12月、春夏秋冬の「自然観察ハイキング」、シリーズものの「カブトムシをふやそう」など楽しい行事がいっぱいです!(坂本昇)



大人会員 1000円	子ども会員 500円 (小学生以上)	家族会員 1500円 (3人までの会費)
---------------	--------------------------	----------------------------

企画展「ほっとパークこやいけ」はじまります

みずとみどり豊かな昆陽池公園。昆虫や鳥、植物などたくさんいのちをはぐくむ昆陽池公園。そんな「ほっと」な昆陽池に関する企画展を開催します。春から夏にかけて観察できる昆虫や植物などを紹介します。みなさまにとってもう一度公園を散策してみたくするような内容をめざします。(角正美雪)

企画展 「ほっとパークこやいけ」

期 間 2005年3月9日(水)~5月23日(月)

もよおしあんない

2月	13(日) 昆虫折り紙アート講座
3月	13(日) 昆虫折り紙アート講座
4月	10(日) 昆虫折り紙アート講座 16(土) ふれあい体験「虫さんこんにちわ」 17(日) レング畑で昆虫さがし 予約制
5月	8(日) 昆虫折り紙アート講座 14(土) ヤママユ飼育講習会 2回シリーズ① 飼い方 予約制 15(日) ミツバチ観察会 3回シリーズ① 花粉団子 予約制
6月	上旬 ホテル観察会 予約制 5(日) ミツバチ観察会 3回シリーズ② はちみつ 12(日) 昆虫折り紙アート講座

特別展

7/13~8/31 水生昆虫大集合<いたこんカーニバル>(仮称)

企画展

12/15~3/7 伝説の昆虫雑誌インセクタリウム
3/9~5/23 ほっとパークこやいけ
5/25~6/27 毒虫(仮称)

学習室 プチ展示

1/19~3/17 すやすやムッシー展 ~冬越しするいきもの~
4/27~5/30 だんごむし(仮称)
6/1~6/27 ようちゅう・たまご(仮称)

講習会・観察会の申込方法 <詳しい内容は...申し込みには...>

- ・伊丹市内に在住の方
広報伊丹をごらんください。
- ・伊丹市外に在住の方
電話でお問い合わせください
- (講習会・観察会の実施日の
約1ヶ月~2週間前までにお問い合わせください。
*広報伊丹は実施日の約1ヶ月前に掲載します。
電話でのお問い合わせは掲載以降に案内いたします。
- ・往復ハガキに記入し、お送り下さい(締切日必着)。
*講座により申込方法が異なる場合があります。
- ・申込多数の場合は抽選になります。
- ・受講の詳細は、返信用ハガキでお知らせします。

<input type="checkbox"/> 〒	参加希望の講座名
返信	参加希望者全員の ふりがな 名前・学年(年齢)
あなたの住所 氏名	住所
	電話番号

<input type="checkbox"/> 〒664-0015	伊丹市昆虫館 3-1
返信	伊丹市昆陽池3-1 行
	何も書かないで ください

編集スタッフより

春は色とりどりの花にチョウが舞う素敵な季節です。寒い冬を越えたいきものたちに出会える春をいたこんニュース第4号で特集しました。ニュースを片手に昆陽池公園や家の周りを散策してみてください。(角正)
クロスズメバチ捕りに参加してきました。刺されたのは痛かったけど、食べてみるとそんなことは忘れるほどの秋の味覚でした。次回みなさまに報告します。(坂本)